

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関：上越教育大学教職大学院 連携機関：長野県教育委員会（長野県総合教育センター）
コラボ研修プログラム	テーマ：長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院が創り上げる「明日の子どもに役立つ」教育研修
支援事業報告書	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携講座 ～学校現場の教育課題を解決するための研修講座～ 開催日：①令和3年6月18日（金）、②7月1日（木）、③7月20日（火）、 ④8月26日（木）、⑤8月31日（火）※各講座の内容は下記参照 開催時：各日とも9時～16時 開催場所：①～③長野県総合教育センター（長野県塩尻市大字片丘南唐沢 6342-4）、④、⑤オンライン 参加人数（総数）と参加者の属性：5回総数：142人 教員学校種内訳（小学校：67、中学校：49、義務教育学校：3、高等学校：5、特別支援学校：12、その他：6）講座毎内訳（①35人、②14人、③23人、④33人、⑤37人）

内容

- ①6月18日(金) 特別支援教育講座 ～小・中学校、高等学校における特別支援教育～
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 西川純 同准教授 関原真紀
内容：特別な配慮を要する子どもへの具体的な指導・支援を考えるうえで、子どもの将来を意識した具体的な学校運営、学級運営、授業づくりをデザインし、そのためには具体的にどのような配慮が必要なのかを習得することをねらいとして行った。
- ②7月1日(木) 道徳教育講座 ～道徳授業づくりの理論と実践～
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 早川裕隆
上越教育大学上廣道徳アカデミー 特任教授 小宮 健
内容：小学校では2018年度から、中学校では2019年度から「特別の教科 道徳」が導入された。授業を実践するにあたっての、不安や疑問に応えながら、効果的な授業実践を可能とする授業力の向上を目指す。特に、後半の模擬授業では、効果的な発問、補助発問、道徳的諸価値の理解や生き方に関して児童・生徒に理解してもらう方策を具体的に制作することができるようになることをねらいとして行った。
- ③7月20日(火) ICT活用の初歩講座 ～教科学習・プログラミング教育の実践～
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 准教授 榊原範久 同 准教授 大島崇行
内容：GIGAスクール構想における授業作り、プログラミング教育が進み始めた学校現場において、ICTを活用した授業づくりに迷う初歩の初歩も教員が、同じ歩調で研修を受けられることを第1のねらいとし、その上で、何をどのように教室環境で使用したら良いのかを、周りの受講者とともに考えながら、実際に触り明日の授業で活用する意欲を持つことを第2のねらいとして行った。
- ④8月26日(木) 主体的・対話的で深い学び講座 ～算数・数学と国語での「深い学び」～
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 岩崎 浩 同教授 片桐史裕
内容：「主体的・対話的で深い学び」はアクティブ・ラーニングの視点で普段の授業を見返すことにある。しかし、一斉型指導に慣れた方は、話し合いをさせれば深い学びが起こると考えてしまいがちである。深い学びをデザインするためには、自由裁量のある学びを教師が保障できるかにかかっている。そのためには「問い」が重要である。また、そもそもこのような学びを今、実践しなければならぬのか、それは、子どもが生きるこれからの世の中にヒントがある。これらを理解することをねらいとして行った。
- ⑤8月31日(火) 学級経営講座 ～効果的な集団づくり～
講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 准教授 岡田広示 同教授 赤坂真二
内容：日頃の授業を通して子どもの学力向上を願う際、教科の学びを研修すると共に、子どもが集団として過ごす学級経営についての研修の両方の関連性を考慮する必要があり、教科経営と学級経営を共に学び合うことをねらいとして行った。

成果：

参加者の声

- ① ADHD、ASD の特性や支援方法を心理的疑似体験をまじえながら教えていただき、発達障害のある子ども達の困り感に触れることができました。
- ② 道徳の授業では、生活の中で“こうしなければならないこと”や“こうの方がいいよね”ということの理由を考える扇の要であることがしっかりと腑に落ちました。また、そのための主題の明確化や発問の組み立て方の具体的な方法を教えていただき、頭の中がスッキリとする感覚がわかりました。
- ③ ICT の基礎から学ぶことができました。パソコンを上手に使うことによって、学習の幅が広がり、いろいろなことができますと思いました。プログラミングの講義もとても楽しく参加できました。私は苦手意識が高かったのですが、やってみよう!やろう!という気持ちになりました。
- ④ 対話の大切さを、改めて感じました。今までも分かっていたつもりでしたが、教師主導の授業で、対話の内容も教師が望む方向に引っ張っていついてしまっていたと反省しています。子どもに知的責任を譲り渡すという言葉が、心に残りました。そのような授業を心がけていきたいです。
- ⑤ 基板になる部分が定まらない中で、経験や身近な先生方の学級経営をもとに行っているため、漠然とした不安感や本当にこの方法でよいのかという確信を持ってない状況が日常的にあります。本日の講義の中で、客観的に先生のタイプをわけたことや大切にしたい軸をはっきり示していただいたことで、自身に足りないものを考えることができました。

アイデアや工夫したこと：

- ・講座内容は、長野県教育委員会（長野県総合教育センター）と協議して行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により急遽オンライン形式となった④、⑤講座は、長野県総合教育センターから ZoomID や、GoogleClassRoom を提供してもらい、講座参加者にログインしてもらって資料等を配付した。
- ・④講座では、大学教員側が理論的な部分を、長野県総合教育センター職員が演習的な部分を担当し、双方で講座を創り上げた。

<写真・図など>



①講座 特別支援教育講座



③講座 ICT 活用初歩の初歩講座



②講座道徳教育講座

